

## プロテインキナーゼ G $\beta$ ヒト、組換え

Cat. No. NATE-0580

Lot. No. (See product label)

### はじめに

説明	プロテインキナーゼ G $\beta$ は、ヒト乳がん細胞株 MCF-7 および MDA-MB-468 などの特定の細胞株においてアポトーシスを誘導します。これは、細胞増殖を抑制し、大腸癌細胞株においてアポトーシスを誘導します。
用途	プロテインキナーゼ G は、cGMP によって活性化されるセリン/スレオニン特異的プロテインキナーゼです。プロテインキナーゼ G $\beta$ は、アポトーシスを誘導し、細胞増殖を抑制するために使用されます。
別名	プロテインキナーゼ G $\beta$ ; PRKG1B; PRKGR1B; PKG1B; cGMP 依存性プロテインキナーゼ 1; cGKI-BETA

### 製品情報

種	人間
由来	バキュロウイルスに感染した昆虫細胞
形態	緩衝された水性グリセロール溶液
分子量	分子量 76 kDa (モノマー)
純度	>95% (SDS-PAGE)
活性	> 1.5 ユニット / mg タンパク質 (cGMP による 20 倍の刺激 (5 $\mu$ M))
緩衝液	20 mM Tris バッファー (pH 7.4)、1 mM EDTA、1 mM $\beta$ -メルカプトエタノール、100 mM NaCl、10 U/ml トラシロール、50% グリセロールの溶液。
代謝経路	適応免疫系、特定生物のバイオシステム; ギャップジャンクション、特定生物のバイオシステム; ギャップジャンクション、保存されたバイオシステム; 止血、特定生物のバイオシステム; 免疫系、特定生物のバイオシステム; 長期抑制、特定生物のバイオシステム; 長期抑制、保存されたバイオシステム
機能	ATP 結合; cGMP 結合; cGMP 依存性プロテインキナーゼ活性; カルシウムチャネル調節因子活性; ヌクレオチド結合; タンパク質結合; タンパク質セリン/スレオニンキナーゼ活性
単位定義	1 ユニットは、10 mM HEPES、pH 7.4、5 mM MgCl <sub>2</sub> 、1 mM DTE、および 0.2 mM EDTA 中で、1 分あたり 1 マイクロモルの VASptide (RRKVSKQE) 基質をリン酸化します。

### 保管・発送情報

安定性	-20°C
-----	-------